

## 目次構成私案（たたき台として）

（中大・佐藤）

当初の正副委員長・幹事長サイドの思惑以上に、「荷重論」の原論のようなところで、議論が活発に出ているようです。ただ、このままでは「ゴール」が見えてまいりませんので、このあたりで「目次」につながる成果物の全体構成のイメージ作りを始めてみたいと思います。目次というより、キーワードを羅列しただけのような気がします…

## I 編 土木における荷重・作用論

- 0. 設計における荷重・作用の位置付け，国内標準類の現状 【今まで荷重はどうしてきたか】
  - 1. 国際標準（ISO2394）における作用(荷重)
  - 2. 建築物荷重指針の紹介
  - 3. 土木構造物の特徴（広範性）と，荷重・作用論の問題点 【構造物非依存の要素の必要性】
  - 4. 「荷重因子」概念の導入（←用語の妥当性は議論を要する）
  - 5. 性能設計体系における荷重・作用論+包括設計コードの紹介 【自ら設計荷重を決めるには】
  - 6. 性能と関連づけた荷重・作用論の例（性能マトリクスなど）
  - 7. 変動作用・偶発作用の定義と整理 【今問題のところ】
  - 8. 動的作用の処理 【荷重因子を特徴付けるパラメータは】
    - （8'．荷重・作用分類の軸が他にもあれば…）
  - 9. データの収集と確率モデルの構築 【極値統計論など】
  - 10. 荷重組合せ論

## II 編 荷重・作用各論+データベース・リンクの構築

- 1. 死荷重（やる？）
  - ・荷重因子
  - ・荷重因子を利用した設計法の例 （←II編にあるべきなのか？III編かも。）
- 2. 平常時土圧（+水圧？）
  - （項目は1.と同様）
- 3. 雪荷重（やる？）
- 4. 温度変化の影響
- 5. 風作用
- 6. 地震作用
- 7. 波力および流体力
- 8. 衝撃作用
- 9. 環境作用
  - 塩分等／化学物質環境
  - 地盤沈下等
  - （火災の影響？）
  - （活荷重？）

※ 参照データベースの紹介

※ HP リンクの構築

※ 新規データの取り込み（参入を呼びかけるシステム）

### Ⅲ編 付属書 (Annex)

- 偶発作用として扱うべき地震作用
- 荷重係数の試算例
- 各種「性能」について（特に使用限界状態）
- 既存構造物の維持管理のための荷重関連事項（調査項目等）
- 「責任限度荷重」の概念の導入，合意形成論

当初の想定が、「荷重因子を分離して」「そのデータをできるだけ集めて」「種別に羅列する」という，上記のⅡ編の荷重因子部分に重点をおいたものであったのに対し，これまでの議論は，それ以前の荷重論のところに多くの時間が割かれています．この機会にきちんと整理しておく必要があるように思われます．また，やはり「荷重因子だけで終わり」では説明不足，あるいは実務に対して不親切，という感覚が抜けないかな，という印象もあります．「構造物依存」の部分を，「設計法」というような項目にして，Ⅱ編にくっつけてしまうか，それとも「本来の趣旨からは，はずれる」ということで，Ⅲ編にもっていか，議論を要するところと思われます．